



令和4年度子ども模擬議会

土浦の将来を担う子どもたちからの提案

今年で25回目となる「子ども模擬議会」を、8月9日(火)に市議会議場で開催しました。市内8校の中学校および義務教育学校から選ばれた子ども議員8人と子ども議長1人が参加しました。当日は、議場見学と市長との座談会も行いました。

模擬議会では、「よりよい土浦市にするためには、

どうすればよいか」を子どもたちが考え、市長をはじめ市の執行部に提案しました。「夢のある、元気のある土浦」の実現に向け、将来を真剣に考えた提案について、市の答弁の概要とともにご紹介します。

問広報広聴課 (☎826-1111 内線2399)



土浦第一中学校
淡路仁愛 議長

緊張しましたが、無事に議長役を務めることができました。

普段の議会では、さまざまな意見や知恵を出し合っ、熱心に討議されていることがよくわかりました。

今回の模擬議会での貴重な経験を大切にして、私もまちづくりに協力していきたいと思います。



土浦市長
安藤真理子

皆さんの土浦への思いや市政への関心に、とても感激しました。私も、皆さんが土浦を誇りに思い、住み続けたいと心から思えるよう、未来が約束できる土浦を築いてまいります。

今回の模擬議会で得たさまざまな経験や知識を、これからの学校生活でも活かし、未来に向かって頑張ってください。





防災について

土浦第二中学校 岡田理彩 議員



●提案●

私は、ユニバーサルデザインを使用した避難所用案内板の設置と、中学生の防災クラブ結成を提案します。ユニバーサルデザインで示すことで、誰もが行きたい場所を探ことができ、どこに何があるかが分かるなど役立つと思います。また、中学生の防災クラブでは、私たちが災害時の行動について考え、研修や話し合いをすることで、より防災への意識を高められるのではないかと思います。

●答弁●【羽生総務部長】

避難所への誘導看板に、ユニバーサルデザインを取り入れていきたいと思っています。また、子どもたちが防災に関して、考え、学べる場を増やせるよう、何ができるかを検討していきたいと思っています。

土浦市のPRについて

土浦第一中学校 大槻脩真 議員



●提案●

私は、土浦市の魅力が感じられる自然や名産品などの動画を、市のホームページやSNSを使って発信することを提案します。学校で「市のどんな魅力をPRすべきか」アンケートをとったところ、市の花である桜について意見がありました。そこで、市民目線で見つけた桜の名所を「つちまる」が紹介する動画を作成したらよいのではないかと考えました。このような動画を発信することで、全国に向けて土浦市の魅力をPRできると思います。

●答弁●【川村市長公室長】

おすすめの桜の写真を皆さんから投稿してもらい、開花状況などを盛り込みながら、リアルタイムで紹介できないか検討していきたいと思っています。

りんりんポート土浦について

土浦第四中学校 中山怜菜 議員



●提案●

私は、気軽にりんりんポート土浦を利用することができないかと考え、複数の種類のマップ作成や、目的地までのルートが分かるアプリの作成を提案します。「初心者用」「りんりんポート土浦を満喫したい方へ」などのマップを作ることで、それぞれの人に合った楽しみ方ができると考えます。また、アプリを使うと、迷わず目的地まで辿り着くことができるため、さまざまな場所へ行けるようになると思います。

●答弁●【船沢都市政策部長】

「ちゃりさんぽ」というWebサイトで、さまざまなコースを紹介しています。今後も、土浦のサイクリングやりんりんポート土浦のPRを進めていきます。

のりあいタクシーの運行について

土浦第三中学校 岡田真依 議員



●提案●

市内の高齢者の方から、「のりあいタクシー」について、「登録、予約が面倒で使わなくなってしまった」「サービス自体を知らない」という意見を聞きました。利用者を65歳以上に限定せず、妊婦や障害者の方など、支援を必要とする方が利用できるサービスにすることを提案します。また、利用者の手続きなどの負担を軽減することで、利用者の増加や知名度の向上につながると思います。

●答弁●【塚本保健福祉部長】

さまざまな支援が必要な方に対する助成を行っているほか、「つちまるバス」や「キララちゃんバス」を運行しています。「のりあいタクシー」も利用しやすい方法を考え、PRに努めます。



土浦ブランドについて

土浦第六中学校 古橋杏彩 議員



●提案●

私は、すでに市で開催されている大きなイベントと、土浦ブランドの魅力を伝えるイベントの同時開催を提案します。土浦ブランド認定品の多くは食べ物です。イベント時にお菓子や、お酒などを多くの人においしく食べてもらうことで、土浦ブランドの魅力を伝えることができます。また、土浦ブランドを目的に来場した人へ、市の魅力を周知することもできるため、市を活気づけることにつながると思います。

●答弁●【安藤土浦市長】

現在、土浦ブランドは38品認定されています。広く周知するため、イベント時に認定品の販売会を開催しています。より多くの人に魅力を伝えるため、SNSの利用など工夫していきます。

生涯スポーツについて

土浦第五中学校 木村広楼 議員



●提案●

私は、月に1、2回「スポーツの日」を設けることを提案します。「スポーツの日」には、ルールを守り大切に利用してもらうことを条件に、体育館や運動公園を、市民へ自由に貸し出します。また、1回利用するたびにスタンプが1個貯まるスタンプカードを作り、10個スタンプが貯まると特典が付くようにします。これにより、楽しみながら生涯スポーツを実行することができると思います。

●答弁●【望月教育部長】

他市の事例などを研究し、皆様のご意見を取り入れながら、誰もが、いつでも、どこでも気軽にスポーツに親しんでもらえるよう、引き続き生涯スポーツの普及・推進に努めます。

災害の警戒について

新治学園義務教育学校

篠岡駿太 議員



●提案●

私は、1年に1度、小学校の持ち回りで、「防災フェスティバル」を開催することを提案します。校庭では、消防士の訓練体験を行い、体育館では、自宅で簡単に作成できる防災アイテム講座、消防士が使用している道具の展示などを行います。開催場所を毎年変えることにより、多くの人に消防士や消防団の活躍を周知でき、私たちも災害時に適切な行動ができるようになると思います。

●答弁●【鈴木消防長】

消防フェスティバルで、消防士が使用している資機材の展示や、自宅で作成できる災害に役立つアイテム講座の開催ができるか検討し、より多くの人が集まるイベントになるよう努めます。

観光イベントの連続性について

都和中学校 横山慶一郎 議員



●提案●

私は、イベントを相互に関連させ、連続して土浦市に訪れたいくなるような方法で開催することを提案します。例えば、カレーフェスティバルを、りんりんロード上に分散して開催することで、自転車愛好家の集客も見込めます。また、イベントにスタンプラリーを取り入れ、ポイントを多く集めた人には、花火大会観覧席が当たるなどの特典を付けることで、連続して土浦市に訪れてもらうきっかけを作ることができると思います。

●答弁●【佐藤産業経済部長】

土浦市に何度も訪れてもらうために、カレーフェスティバル会場の分散や、イベントを相互に関連させるなどの提案を取り入れられるよう検討していきます。



～子ども模擬議会後～ 市長との座談会

市長と子どもたちが直接対話をする座談会を行いました。

この座談会は、子どもたちが感じたことや思ったことを市長に直接伝えることで、市長との距離をより身近に感じてもらい、市政への関心や興味を高めることを目的に今年度から開始しました。

はじめに、子どもたちに模擬議会の感想を聞きました。「議場に入った途端に緊張してしまった」「堂々と自分らしく提案することができた」「18歳になって選挙権を得たときに、今日の経験を活かしたい」など、さまざまな感想がありました。



また、子どもたちから市長へ、次のような質問がありましたので、一部をご紹介します。

Q:市長の仕事はなんですか。

A:市民の皆さんを幸せにすることです。皆さんの生活のすべてに関わっています。

Q:市長は土浦にどういった印象を持っていますか。

A:土浦のことが大好きです。土浦から離れてみると、土浦のよさを改めて実感します。歴史と文化があり、自然豊かで宝をたくさん持っているまちです。これからさらに元気な土浦になってほしいです。

Q:市長になって良かったこと、やりがいは何ですか。

A:市長になれば会うことができなかつた方々に会えることです。たくさんの市民の皆さんとお話しできることは、とても嬉しいです。今回、皆さんにお会いできたことも、とても嬉しいです。また、市長になる際に掲げた公約を1つ1つ実現し、市民の皆さんに喜んでもらうことが、やりがいの1つです。

～子どもたちの語学の学びを応援～ 土浦市英語プレゼンテーションフォーラム

☎指導課(☎826-1111 内線5130)

土浦市英語プレゼンテーションフォーラムを、6月22日(水)、二中地区公民館で開催しました。

このフォーラムは、グローバルな視野をもち、英語で自分の意思を発信し、他者と協働しながら課題を解決していくことができる人材を育成することを目的に開催しています。

市内の中学校、義務教育学校、中等教育学校の11校から選ばれた生徒が参加しました。今年度は、「県内に住む外国人の方々に、茨城県の魅力をもっとよく知ってもらうために、私たちがいばらき観光大使として『いばらきマイクロツーリズム』を伝えよう!」をテーマに、グループごとに英語でプレゼンテーションを行いました。

